

吉田キャンパス 科学のつどい(6)

火山噴火と災害

—富士山、桜島、新燃岳そして山口の活火山—

講演者 永尾 隆志さん (山口大学理学部元教授)

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の後、関東から九州まで少なくとも13の活火山の周辺で地震が活発になった。巨大地震によって地下のマグマ溜りが揺さぶられてマグマが泡立ったり、地殻変動や地震波によってマグマ溜りにかかる圧力が変化して地震が増えた可能性がある。過去には東海・東南海・南海地震が連動した1707年の宝永地震の49日後に、富士山が大噴火を起こした。

このように巨大地震の後に、火山が噴火した例が多数報告されており、20世紀以降に起きた5回のM9以上の巨大地震の後には例外なく火山が噴火している。また、今後発生が予想されている東海・東南海・南海地震でも、富士山をはじめとした火山噴火の可能性や災害対策も検討される必要がある。

富士山、桜島、新燃岳の火山噴火と災害を紹介し、それを参考に火山災害から身を守る方法を考えたい。また、山口県北部に分布する活火山・阿武火山群で起こった大規模な噴火についても紹介する。



日時 3月18日(火) 17:30~19:00
会場 山口大学理学部 15番講義室(理学部2号館)

主催 日本科学者会議(JSA)山口支部平川分会
共催 山口大学教職員組合
連絡先 山口大学教職員組合書記局(電話 083-933-5034; e-mail: fuy-union@ma4.seikyou.ne.jp)

学生、教職員、市民のみなさんの来聴を歓迎します